

雨量等防災情報提供システム構築業務 事業概要

業務の目的

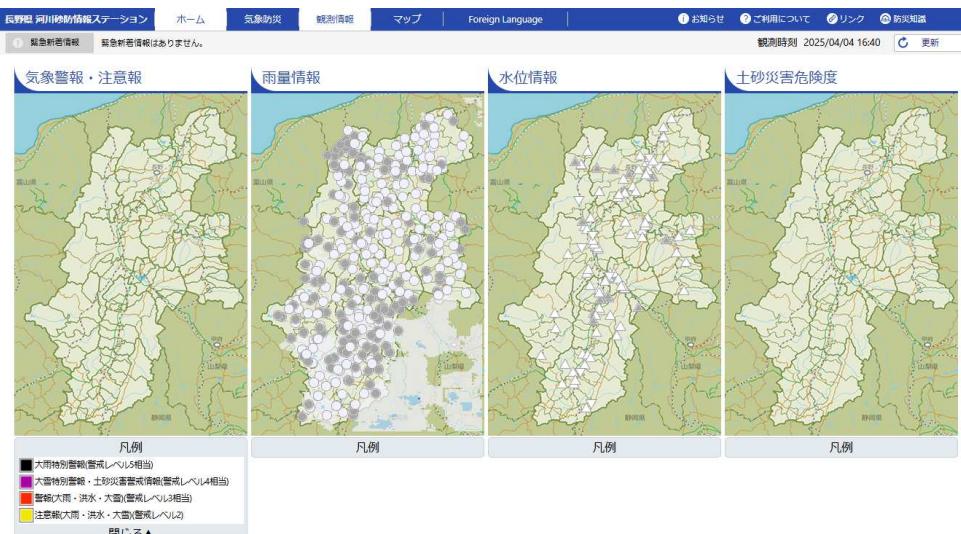
雨量等防災情報提供システム(以下「システム」という。)は、いつどこで発生するか予測困難な土砂災害や被害の範囲が大きい洪水発生時に、命を守るために欠かせない早期の警戒と迅速な避難を促すため、県や気象台等の防災情報を一元化しWEBサイト「長野県河川砂防情報ステーション」をはじめとする多様な伝達方法で住民の皆様へ提供するシステムである。

現行システムは、令和5年4月から運用を開始している。近年の気象の変化や、危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの導入に伴う観測情報の増加に伴い、長野県河川砂防情報ステーションに求められる機能が変化している。また、県の雨量・水位観測システムの改修に伴い、テレメータ監視装置がクラウド化されるとともに、水位観測の間隔が10分から1分へ短縮される予定である。

これら状況の変化を踏まえ、「いつが危ないか」「どこが危ないか」といった防災情報を住民・市町村等に適切かつ分かりやすく提供するため、システムに求める要件を整理し、次期雨量等防災情報提供システムの構築を行うことを目的とする。

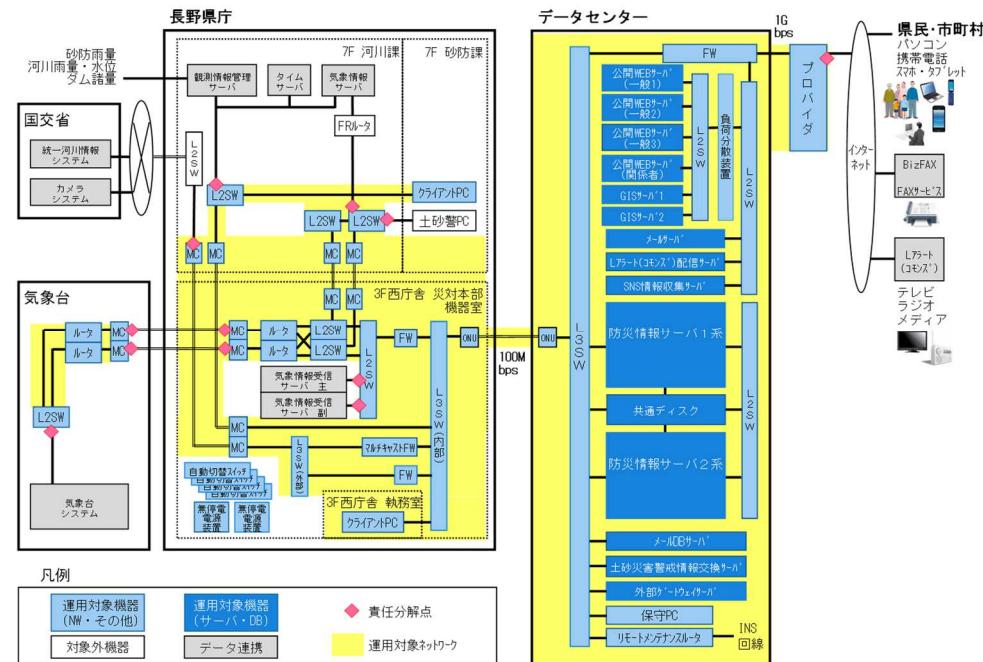
現行システムの課題

- 危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラ等の情報が閲覧できない
- WEBサイトのトップページから利用者の必要な情報の取得まで複数の操作を必要とする
- 水防警報等を発表する職員の業務を支援する機能が無い



現行システムのWEBサイト「長野県河川砂防情報ステーション」トップページ

現行システムの構成図



現行システム構成図

現行システムはサーバをデータセンターに設けているが、雨量・水位観測システムのテレメータ監視装置のクラウド化に伴い、時期システムはクラウドに設けることとする。

新システムの構築により目指す姿

- 現行システムの機能を維持したうえで、危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラ、市町村観測データ、その他関係機関のデータを取り込むことで収集・公開情報の充実を図る
- 収集情報を公開するWEBサイトは、多様な情報を利用者による直感的な操作で容易に取得できる
- 利用者によって必要な情報が異なるため、WEBサイトのトップページに表示される情報をカスタマイズすることができる
- 水防警報等を発表する職員の業務を支援